

V2H-充放電器 SDシリーズ 停電時操作方法

BYD Auto Japan [充放電コネクタ]

当資料は、自動で自立運転が開始しなかった場合、手動で自立運転を開始するための操作方法を説明しています。

以下3条件のいずれかが該当する場合、自動で自立運転が開始されません。

- ・「自立運転切替設定」が無効
- ・ 停電した時点で充放電コネクタがコネクタロックされていない
- ・ V2H-充放電器の電源が入ってから、30分以上継続して接続されていない

※車両側の詳細操作および注意事項につきましては、車両の取扱説明書を参照願います。

I. 給電開始の手順

CHECK

- ・ 車両の「パーキングブレーキ」がかかっていること
- ・ 電源OFF状態（メータが消灯している）であること

- 1 充電ポートフラップを開け、「充放電コネクタ」を充電ポートにしっかりと挿し込む。

【参考図】

正常な差込みの場合は
「カチッ」と音がします



※充放電コネクタ差し込み口の場所や名称、開閉方法等は車両により異なります。詳細は車両の取扱説明書を参照願います。

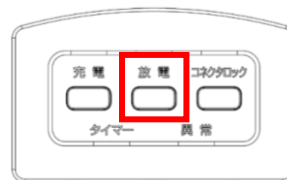
※停電発生時プラグホルダのLEDが赤く光りますが、停電検知の表示であり、数秒で消えます。また、アプリ、リモコンの「運転履歴」にエラーコード51、52などが残りますが問題ありません。

※右上へ

- 2 自立運転を開始する。

【プラグホルダ（操作パネル）の場合】

- ・ プラグホルダの各LEDが点滅から消灯するまでお待ちください。
- ・ 消灯後、「放電」ボタンを押します。
- ・ 自立運転を開始すると、「放電」LEDが点灯します。



【室内リモコンの場合】

- ・ 「状態」画面でメニューアイコンをタッチします。
- ・ 「操作メニュー」で「放電開始」をタッチします。
- ・ 放電を開始すると、本体状態が「自立運転中」になります。



- 3 準備が完了し給電可能となる。
使用する電気設備の電源を入れてください。

II. 給電停止の手順（停電中に運転停止する場合）

【プラグホルダ（操作パネル）の場合】

- ・ 「放電」ボタンを押します。
- ・ 「放電」LEDが点滅します。
- ・ 自立運転が停止すると、「放電」LEDが消灯します。

【室内リモコンの場合】

- ・ 「状態」画面でメニューアイコンをタッチします。
- ・ 「操作メニュー」で「停止」をタッチします。

【スマホアプリの場合】

- ・ 「コネクタロック解除」をタッチすると運転が停止し、コネクタロックが解除されます。

※「放電停止充電率」または車両が定めた充電率に達したときは、放電を自動で停止します。

※次ページへ

III. 自立運転中、過負荷によりV2Hが停止した場合の復旧手順

- ・ V2H-充放電器の定格電力「6kVA未満（片相3kVA未満）」を超えて電力を使用した場合に、給電が停止し停電状態となります。この場合、負荷を定格電力以下とすることで自動的に自立運転が復旧します。
- ・ ただし、停止から数分（2～3分程度が目安）経過すると自動での復帰は出来なくなります。その場合下記手順にて復旧準備を実施してください。

1 給電停止前に使用していた電気機器等のスイッチをOFFにする。

2 車両の「急速充電口」から「充放電コネクタ」を取り外し、再度挿し込む。

3 1.給電開始の手順 ②～を再度行う。

4 **自立運転を再開**する。
※過負荷に注意し、電気製品のスイッチを入れてください。

IV. 停電終了（復電）時

- ・ 停電が復旧すると自立運転は動作を停止して、宅内には商用電源から電力供給されます。
- ・ 停電が復旧してから最大 5 分間は、「異常」以外の LED が点滅しV2H- 充放電器を操作することができません。LED が消灯したら、V2H- 充放電器を操作できます。

注意事項

- ・ 運転席側ドアの解錠ボタンを2回連続で押す、またはリモートキーの解錠ボタンを押すと給電が停止します。
- ・ 車両の電源ポジションを「OFF」にし、長時間V2Hと接続したまま放電しない場合、車両の漏洩電力が多くなるためコネクタを外すようお勧めいたします。